

思うこと 面を打ちながら 岩井 彩

高くてとおっしゃる方もおられ お能を う印象を受けたことはありませ 富んだ方が多く「封建的」とい 生方も、 私が存知上げている能楽師の先 らえるよう努力されています。 るだけ多くの方にお能を見ても ておられる方だけでなく、出来 楽関係者の方は謡や仕舞を習 かもしれませんが、実際には能 そういう先入観をお持ちになる ずいぶん進取の気性に

見たいのだけど何となく敷居が

のシーズンとなります。 が、九月に入ると本格的な能楽 で野外の薪能がよく催されます

い七月、八月は各地の社寺

格式も高い伝統ある芸能なので ありません。確かに歴史も古く ますが、そのようなことは全く

> 学3年の時でしたが、 私が面打を習い始めたのは大かけ下さい。 ます。能舞台にはお気軽におで 的に練れた方が多いように思い はなりませんがそのせいか人間 時から厳しい修練を積まなくて

と云われた故北澤如意師に師事 場合は両親共に不世出の能面師 だにしていませんでした。 個展を開くことが出来ました。 打ち始めて十四年目にやっと初 していましたので恵まれた環境 将来面打が仕事になるとは想像 ではありました。 それでも面を 当時 私の は

使えますよ」と言って頂き、 その時能楽師の先生に「舞台で らだと思っています。 れたのはやはり運が良かったか 際に使って頂くこともでき今日 に至っています。ここまで来ら 実

くづく思うのは、 しますが、正直言ってたいへん こういうのはおこがましい気が 面を打つことを仕事にしてつ 自分の仕事を

> かというと能楽では能面がたい ということです。 奥が深く生易しいものではない どういうこと

ん。

能楽師になるためには幼

うにもならない要素があるので あります。それは仕事をするこ をしていて良かったと思う点も 他ありません。しかしこの仕事 すのでこれからも努力していく いうことでとても恐いことで 面にそのまま表われてしまうと それは作者の人間性が作った能 い」とおっしゃっていました。 たければまず自分を磨きなさ す。北澤先生も「良い面を打ち ません。何故か技術だけではど もなかなか思ったようにはいき 幽玄でなければなりません。で 現するために能面は気品があり す。『幽玄』という能楽精神を表 へん重要視されているからで と自体が自身の修養になってい 私はまだまだ途上の人間で

### ―晩年学フォーラムのこと― 「人生の出口」 の現象学

(女子大学名誉教授 上野 臘

彼は、この本の紹介を「晩年学 フォーラム通信」に連続して書 をやっている片山寿昭である。 めた。この本を勧めてくれたの ・ダンの『老いの泉』を読み始 遅ればせながらベティ・フリ 一緒に「晩年学フォーラム

いている。

ている。

すます。肩身が狭くなる。 いう思いを、あらゆるマス・メ …と解る。誰だって、いつまで も「美しく」もない人間は、 て喧伝するし、おかげで「若く ディアが「価値あるもの」とし っていたいと思うものだ。そう も一若く」「美しい」ものに関わ ることには躊躇があったのだか にしても、 女性開放運動に関わった著者 最初 一老い」に関わ ま

> なった」 ターゲットにつくられるように 歳から四十九歳までの年齢層を が流行を先取りし(中略)十八 でもジーパンでも『若者市場』 「今や音楽でもヘアスタイル

反対に、老年学の科目に首を

生を放棄することだ」とも記し 果たす』ことは、文字どおり人 りにも多い」と、ベティ・フリ しく子供じみた高齢者像があま 突っ込んでみると、哀れみ、 たわり、軽蔑の対象である、貧 「今日、『老人としての役割を ダンは書いている。

ちも、アホカイナ…と思うだけ るぞよ…と言ってみても、そっ 自己の未来への蔑視や嫌悪であ 者蔑視」や「嫌悪」を、それは ないものである。若者の「高齢 生きることの大変さを実感でき 齢を生きるまでは、その年齢を うが、人というものは、その年 この落差。アホカイナ…と思

人はそれと同居している。その 老年学だな」と考える人もいる 事実を中心に据えるかどうか て「死」は人に貼りついている。 出来ない。予測不能なものとし の死の「訪れ」を免れることは ろうと、青年であろうと、突然 晩年学というのは、つまり従来 の専売特許ではない。 だろう。しかし、残念ながら、 れを越えるために始めた新種の の老年学に飽きたらなくて、 「晩年」というものは「高齢者」 こんな話を書くと、「ははあ 幼児であ

が、「老年学」と「晩年学」の分

かれ目である。

その度に繰り返している。 という本をだしたのですよ」と、 宰治はね、二十七歳で『晩年』 年学」と誤解する人がいる。「太 自由の会である。それでも「老 体験と話題は多様である。 術、哲学、歌舞伎、 る。文学、歌謡曲、 提供者を決めて例会を持ってい もう一年半経った。毎月、話題 「晩年学フォーラム」を始めて 古典、 マンガ、 参加 私的

### 天寿

説明されている

### 黒岩重吾

(作 完

最近の健康ブームは眼に余る ものがある。昼食時や、仕事中 ものがある。その内容といえば、 組である。その内容といえば、 はである。その内容といえば、

など集まっている視聴者に当て糖が増えないか、便秘に効くか、

させる、といったものだ。彼女させる、といったものだ。彼女らしい。時間帯から判断して在らしい。時間帯から判断して在宅視聴者も同じと思われる。考えるところがあって、放映内容を研究してみた。驚いたことに、或る番組では身体に良いとされるものが、別の番組ではとされるものが、別の番組ではりない。彼女

によっては身体に悪い、

などと

薬だ!

番組に出演して、もっともら者である。これでは視聴者を混者である。これでは視聴者を混乱させてしまう。果してそれなりの根拠があって述べているのに疑いを抱かざるを得ない。のに疑いを抱かざるを得ない。のに疑いを抱かざるを得ない。見て若さを保ち、長生きしたい見て若さを保ち、長生きしたいのだろうか、小首をかしげたくなる。

糖尿病も撃退する「トマト」は を述べてみる。「足の裏テープ」 を述べてみる。「足の裏テープ」 でやせた!ストレスも耳鳴りも 解消。「海水レモン水」はハゲ、 アトピー、糖尿病の特効水。も めば九十九の病気が治る「手の めば九十九の病気が治る「手の めば九十九の病気が治る「手の がん精力がつく、ガンもボケも

> る。 ものの惹句がずらりと並んでい 列挙すれば切りがない。噴飯

それだけ現代の人々は健康とが溢れ、選択に迷う。 デパートの健康食品売り場に

婦層だが、雑誌になると中老年

テレビでは視聴者の殆どは主

長寿を求めているのであろう。最近の週刊誌に、銀座の遊び人として有名な社長の死亡記事が出ていた。五十二歳の若さである。何と彼はクロレラ、青汁などで有名な健康食品会社の社長だった。死因は脳梗塞である。

# 教えてもらったこと

「タイには、私たちの学校を含

(国際中学・高等学校教諭

は、広大な敷地内に、映画学校は、広大な敷地内に、映画学校は、広大な敷地内に、映画学校は、広大な敷地内に、映画学校は、広大な敷地内に、映画学校は、広大な敷地内に、映画学校は、広大な敷地内に、映画学校は、広大な敷地内に、映画学校は、広大な敷地内に、映画学校は、広大な敷地内に、映画学校は、広大な敷地内に、映画

館もあればスタジアムを備えた

変革していこうとする意欲

プー 渡り歩いていく。 ぞれの教員の趣味で飾り付けら うこじんまりした教室は、それ を絶する豊かな教育環境にあ 日本の学校事情からすれば想像 生徒達は授業ごとに教室を 一クラスが二十名程度とい ・ルも完備しているという、

生活をエンジョイしているか」 の奥の目が、確信に満ちている。 ミーシング女史の大きな眼鏡 ミーシング女史は質問する。 「大多数の生徒は、…多分 あなたの学校の生徒は、学校

に挑戦している

に優秀であり、常に新しい教育

ここにいる教員は、それぞれ

絶対的な自信。そして常に自己 なのかといった顔である。 ないのか。生徒が学校生活をエ ぜもちろん楽しんでいるといわ からないこいつは、本当に教師 ンジョイしているかどうかも分 明らかに不満そうな顔だ。な 分のしている教育に対する

と胸を張った。

ものは、この強さなのだ。 私が本当に欲しいと思う

ければと思う。 教育の精度をあげる努力をしな もっと自分が自信を持てるまで た。その一員としてそれなりの に」ではだめなのだ。もっと、 たと思う。けれども、「それなり 自負はあるし、成果を挙げてき 本校の教員はここまでやってき できない手探り状態のなかで、 ほかに規範を求めることも 国子女教育の歴史は新

懇談した。最初の一年間は授業 るし授業がとても充実していま についていけずによく泣 たという男子生徒は 見学が終わって日本人生徒と 「今は英語も自信をもってい いてい

## 朝もやの街

黒瀬礼子 植村牧場代表

貧しいなんて言葉がほとんど死 不幸を感じる事さえあります。 ち溢れ、物質的な豊かさの中で おいて何の不自由もなく物が満 る様になりました。今の日本に なニュースがあちこちで聞かれ る事が出来ます。 ながら、早朝いろんな情景を見 です。「早起きは三文の得」とよ は裏腹に、最近胸が痛くなる様 く言われますが、牛乳配達をし が、よく見ると鹿の目だったの るのだろうと思っていたのです キラ光るもので目を見はりま ると、まるで蛍の群の様にキラ ら若草山への道を車で走って 夜明け前、 初めは何か虫でも飛んでい 朝靄の奈良公園 美しい自然と

> しい人は、 語になりつつあるなか、 朝出会っても、元気よく「お なんと多い事でしょ 心の貧

験戦争や、 らと一緒にいると、 を流してくれています。 らは、健気に一生懸命働き、 寝食を共にしています。 数年前から知的障害の青年達と きかったと思われます。 しさから得るものは、確かに大 さんあったと、言われます。貧 切にもしたし、考える事もたく はよく、貧しかったから物を大 までの厳しい3Kの仕事を、 いう休日もなく早朝より夜遅く きている様に思います。昔の人 何であるのかわからなくなって えない人、人間としての常識が はよう」と挨拶すら出来ない人、 ありがとう」と感謝の言葉も言 もみんな優しい気持ちで、 元気な人も疲れている 醜い争い事が別世界 仕事の速い者 世の中の受 私は十 私は彼 酪農と 能力

のある者ない者、 の様に思う事があります。 補い合える世の中にな

を失い、夢もなくなっているの れば……と願わずにはお 年をとるにつれ物事 とかく生活 ずに情熱 に追 れ ませ

ではないでしょうか。どこかの

願っております。彼らこそ、 る」と書いてありました。 の灯を灯し続ける者の為にあ 共に働き共に生きていきたいと やはり情熱を失う事なく彼らと 本に「青春とは年令を問わず心 橅

健常者の責任であると思い が輝くのも、光を失うのも我々 の光であると思います。 雨空の雲の切れ間から差す一筋 今日本では、技術や機械が この光 主

道具が、 走っています。でもこの技術や は役に立たず、必要であったの 昔からの釜であり鍬であっ 世界のトップレベルを 東南アジアの後進国に

の指導者たちを育てたクラーク

ところで、ゲッティンゲンで

たのです。 過ごしている私は、 全くあてはまる事なのです。 自然の中で牛と彼ら相手に しい世の中から少しず 知的障害の人達にも 日本中で一

ております。 つ今日も早朝の奈良の街を走っ 番幸せ者かもしれないと思いつ

## ゲッティンゲンと クラーク

小林義武 (女子大学教授

ドイツではクラークの名は全

校の初代教頭を務め、明治時代 海道大学の前身である札幌農学 とであるが、北海道放送から北 ゲッティンゲンのJ・S・バ ハ研究所に勤めていたときのこ 十五年前、私がまだドイツ・

料があるのか調査してほしいと 博士についてのドキュメンタリ 得したことを知ったのである。 ッティンゲン大学で博士号を取 ゲッティンゲンにどのような資 になって初めて、クラークがゲ ?依頼を受けた。私はそのとき -・テレビ番組を作成するので<sup>'</sup>

> るという伝統がある。 ってその人の業績に敬意を表 に、記念石版を掛けることによ は有名人が住んでいた家の

百年近く

調査したところ、 石に関する鉱物学の博士論文等 ガウス、ヴェーバー、ヴェーラ ンを選んだ理由としては、当時 に学んでいるが、ゲッティンゲ 五〇年から五二年までこの大学 が見つかった。クラークは一八 博士証書や闘

別な関係(この大学の創立者が たことと、イギリス王家との特 ッティンゲンを自然科学におけ るような有名な学者たちが、ゲ ていたことが挙げられよう。 から英語の博士論文が認められ 11 アーの侯爵と英国国王を兼ねて オルク・アウグストはハノーヴ る世界の中心地に築き上げてい ーといった、教科書にも登場す た のため、当大学では早く

> 挙げれば切りがないほど多くの < る。 然に語り伝えられる仕組みであ 版によって、 鞭を執っていたことが、記念石 著名人が、ここで学んだり、教 11 イネ、グリム兄弟、 ビスマルク、フンボ 街を歩く人々に自 コッホ等々 ルルト、

大学音楽学科のヨーロッパ夏期 運びとなった。その時期、 請した。その結果本年九月二日 は、 記念石版に値すると考えた私 くの重要な弟子を育てた功績は く知られていないが、 に石版の除幕式が執り行われる この程当市にその設置を申 日本で多 女子

う段取りであったため、 市長が除幕し、 共に式に参列した次第である。 いたため、 研修旅行の引率を仰せ付かって いてもドイツ人参列者に説明で にクラークと新島襄の関係につ 業績に対する賛辞を述べるとい 私は三十名の学生と 私がクラークの

辟

賞者を輩出したばかりでは は三十人を超えるノーベル賞受 も続いた自然科学の黄金時代に

思い出もある。思い出もある。

# 「住する所なき」心で

(能楽金剛流若宗家夫人)

い奥深さを教えてくれたのでし ことになった私に、 あることを示しています。そし がままの無の境地に至る芸術で 花と知るべし。 古典芸能の世界に突然飛び込む てこの言葉こそが、 しないことであり、 伝書の中でこう語っています。 「住する所なき」とは物事に執着 「能も、住する所なきを、まづ 能がとらわれのないある 能の限りな 世阿弥の言 一世阿弥は花 能楽という

> とは、 業後、 うがありません。 な運命の巡り合せとしか言いよ 能楽の世界に入ることになろう 学びました。そんな私が大学卒 い影響を受け、 をし、その間に西洋文化から強 を過しました。自由な校風の下 館に幾度となく足を運ぶとい 仏学館に通い、 英語を学び、その合間に関西日 学科に在籍し西洋文化に強く心 かれておりました。 かつて私は同志社大学の英文 私は思う存分やりたいこと 正に西洋一遍倒の青春時代 思いもかけぬ古典芸能の 今思い起こしても不思議 かつ多くの事を 洋画を見に映画 大学では

しかし、それ程西洋に傾倒していた私を、能はその奥深さでそのまま包み込んでくれたのでした。饒舌さや全ての余分な装飾を一切省き、そのとぎすまされた本質のみによって能は溢れんばかりのメッセージを私に伝えてくれました。能によって自

す。

は自分の西洋一遍倒であった感性が少しずつ幅を持ち始めたのを感じていました。能はその執着せずあるがままを受け入れる着せずあるがままを受け入れる行きな懐で、決して西洋を否定することなく、国をも問わぬ芸術の素晴らしさを教えてくれたのでした。大学時代に西洋文化から吸収した多くの事柄は今ながら吸収した多くの事柄は今なお私の中で生き続け、私はそれらを生かしながら能と向き合い、能の世界の中で生きています。

ができましたらと願っておりま 間 なき」心で、日々精進すること 方として、 能楽という日本の古典芸能の裏 ます。そして私は、これからも で生涯大切にしてほしいと思い 打ち込んだことは、 ます。娘にも大学時代に夢中で 同じ大学に入学しようとしてい 思われますのに、 に過ぎ去って、 少しでも 来年は長女が 歳月は知らぬ 何らかの形 「住する所

る想像力を胸に抱きながら、

私

卒業したのがつい昨日のように青春を謳歌した同志社大学を

# 次代へ伝えたいもの

が必要なのである。

蒔絵筆にしても、

細い線を引

下出祐 (漆芸家・詩人 太郎

れらの技術や道具には、 いるのだが、考えてみると、こ ように塗りや蒔絵の仕事をして (三○センチ)弱のもので、 の髪の毛で作られている。 たであろうことがうかがえる。 しれない苦心と試行錯誤があっ をしている。 私は京都の片隅で、 例えば漆刷毛。 日々あたりまえの 漆刷毛は女性 漆の仕事 はかり 削り 一尺

製して、 また、 て粉にした角粉を使う。 手の平で磨きあげるときには、 の炭)、呂色という工程で塗面を 塗面を研ぐ炭には駿河炭 き、塗り上げたところに落ちた にはムササビの毛などを使う。 の毛、金粉銀粉を掃き込む毛棒 わき毛を使い、地塗り筆には猫 かしから千石船にいるねずみの く根朱筆(ねじふで)には、 りまえにしている仕事が、 蒔絵の技術や技法。ふだんあた 金粉や銀粉を接着させ絵を描く なんという苦心であったろう。 菜種油と鹿の角を蒸し焼きにし ふし(埃)をとるには鯨のヒゲ、 することを思い知らされる。 と永い時間の集積の上に、存在 今は楽しい驚きを覚えるが、 極端に埃をきらう塗りのと これを作り手の文化とするな 漆の木の樹液を採取し精 塗り物に使う技術や、 (油桐 知恵

手の文化があったことを考えな ければならない。茶道の作法 境 地域に根ざし、 は衰退の一途をたどっている。 かわらず、残念ながら漆の産業 ない豊かな時代が訪れたにもか うに、受け継がれてきたのだ。 お母さんから娘さんへというよ おばあちゃんからお母さんへ、 方として、ものを慈しむ心を、 は大事なものを大切に使う扱い まで言わずとも、家庭において 現在、 の中で、 かつて経験したことの はぐくまれてきた伝 循環する自然環

活の状態が悪いと、髪の毛には

品行方正なよい海女さん (?) く。良い漆刷毛を作るためには いろいろと影響が出るように聞

こうして腐心して作られた

き知恵を思うのである。

てきた日本古来の精神の文化の

かさを思う。次代へ伝えるべ

漆の手仕事を通して、

伝承され

さを実感できないでいる。私は

ショックを受けたり、

日常の生

に耐えた直毛が良いとされる。 漁をする海女さんの厳しい環境 固めた頭髪が通っている。 出しては使用するもので、膠で

海で

を伝えてきた。また多くの伝統 化を生み出し、 そして、使い手が作法という文 きたいわば文化遺産なのだが。 統的な手仕事である漆。これら 的な手仕事がそうであった。 の技術や技法は、 ふれる中で、いま私たちは豊か 使い捨てるほどに、ものがあ ものを慈しむ心 日本が培って HO

ものを、大切に扱ってきた使

随想

### 雑 感

(大学神学部嘱託講師 本山秀毅

生の何分の一かはこの怪物に支 しこれに関わりだすと残りの人 言っているのかと、呆れている 思った。が、やめた。今頃何を 方もおられるだろう。実は、も 「パソコン」を始めてみようと

ものである。

配されてしまいそうな気がした のである

確かに生活

事欠かなくなってきた。 ッ」と鳴るものには、ますます 「ピッピッ」。それに加えて、ポ こちで「ピッ、ピッ」という音 ケットベル、携帯電話。「ピッピ より外出してもいたるところで 終「ピッピッ」。電化製品はもと 打っている下手なワープロも始 がしだすようになったのは。今 この電子音「ピッピッ」の頻 いつのころからだろう。あち

ったような無邪気な興奮がある は理解していても幼いころに戻 どを目のあたりにすると、頭で 今でも無人で走るモノレールな 近づいているのだろう。実際、 来都市」のイメージに世の中は とは間違いない。ずっと以前に 段に進化し便利になっているこ 子供の頃、 に関連するいろいろなことが格 いるように見える。 度と生活の利便性は正比例して 何かの本で見た「未

端の開発に携わっている方々 なことである。 無視できないし、これが扱えな 校の授業の正課としての存在も 普及は驚くべきものである。 ればならない。本当にご苦労様 いる人たちも多いだろう。最先 いと仕事にならなくなってきて それにしても「パソコン」 常に前を見て走り続けなけ 0 学

離れた距離でも意志の交換が出 来る。そんな時代に、大勢の人 机上から楽々と多くの人と、

> 珍しいことになった。 くなったかどうかも主観的な部 決して最短距離ではない。うま 率的な場面にお目にかかるのも 分が多い。いまどきこんな非能 とつである。うまくなる道程も ているところが私の仕事場のひ 間が一つの場所に集まって歌

なし」と思っているこの頃であ えながら、「さわらぬ神にたたり 事であることに密かに快感を覚 ン」とかかわらなくてもよい仕 るのか分からないが、「パソコ うからである。 る場所やチャンスが必要だと思 配されてしまわないためにも、 ての主体性を維持し、機械に支 うな気がする。人間が、人とし いる人が多いのもうなずけるよ 中パソコンの画面と向き合って いるのだ。集う人もなぜか一日 おけることを無上の喜びとして 人間としての感性に磨きをかけ しかし、私はこんな場に身を あと何十年生き

